

試作成績からみた「フクシロメ」(だいず東北41号)の特性

村上 昭一・長沢 次男・橋本 鋼二

(東北農業試験場)

Characteristics of Fukushima, Daizu Tohoku 41, a New Soybean Variety

Shoichi MURAKAMI, Tsugio NAGASAWA and Koji HASHIMOTO

(Tohoku National Agricultural Experiment Station)

1 来 歴

フクシロメは、昭和38年に東北農業試験場刈和野試験地において、シストセンチュウ抵抗性、白目、中の大粒、良質、機械化適応性などを育種目標として関東42号(コケシロ)を母、刈交36(岩手2号×ゲデンシラズ1号)F7を父とし、人工交配を行い、以後、選抜・固定を図り、44年に刈系46号、46年にF8代で東北41号の系統名を付し、各地で試作に供した。しかしながら、当時全国的に大豆栽培の縮小・廃止が相次ぎ、この系統も十分な評価がなされなかった。昭和53年に始まった第2次水田利用再編に伴い、作付体系上から早生種の試作希望があり、育成地では再度試験を開始した。60年6月にフクシロメと命名、農林82号として登録された。

2 各地の試験成績の概要

フクシロメは福島、福井、新潟、富山の4県、7場所において2箇年以上の試作が行なわれた。標準品種と比較して、平均105%以上の収量比を示したのは、3県6場所である。

特に福井県では図1・2、表1に示したように標準播、

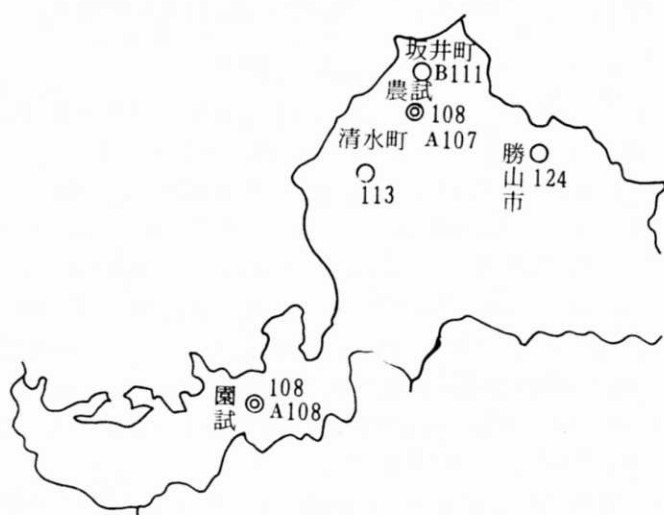


図1 福井県の試作地における標準品種との子実重対比(%)

注. A: 晩播(播種期試験)
B: 麦跡晩播, 無印: 標準播

麦跡晩播のいずれにおいても安定した好成績である。また早生で、麦の播種晩限が早い山間、山沿い地帯でも6月

中・下旬に晩播きしても10月初旬までに収穫期に達するので、栽培が可能である。したがって転換畑の高度利用を図り、周年型作付体系を進めることができる。

障害粒の発生程度は概して少なく、紫斑粒、褐斑粒がワセシロゲと同程度、裂皮粒はワセシロゲより少ない。



図2 福井県における大・小麦、大豆の各作期の現状と展望

- 注. 1) ○ 播種期, — 成熟期年次変動幅。
2) ○—○ 播種適期間。
3) 麦類の播種晩限は嶺北多雪地帯10月5日、嶺北中雪地帯10月10日、嶺北及び嶺南の少雪地帯10月20日。
4) 大麦 ○—○
小麦 ○—○

3 育成地の試験成績

標準播(5月28日前後)と、晩播(7月1日前後)の試験成績を表1に示した。

標準播の開花期の平均は8月1日で、ワセシロゲより3日、ライデンより7日遅い。成熟期の平均は9月28日で、ワセシロゲより7日遅く、ライデンより4日早い。

成熟期の早晩については、東北中北部では中生の早または早生の晩、北陸南部では早生種にあたる。

標準播、晩播を通じ、主茎長はワセシロゲやライデンなどより短く中〜短で、分枝数はライデンより少なく、ワセシロゲ並の中である。蔓化・倒伏の程度はワセシロゲやライデンより少なく強である。

百粒重は普通畑では中粒、肥沃な転換畑では時に中の大粒の水準に達する。福井県では中の大粒となり、晩播しても百粒重の変動が少ない。

子実収量の平均は、標準播、晩播でワセシロゲより17～22%増収し、ライデンに対しては同水準であった。

4 主要病虫害抵抗性

(1) 線虫抵抗性： フクシロメは育成地で線虫生息密度の高い圃場に栽植した成績では、感受性のワセシロゲやハツカリより優れ、抵抗性の強いライデン並の強。平均収量はワセシロゲより26%高く、ライデンより7%低い。

(2) ウイルス病抵抗性： フクシロメはワセシロゲやラ

イコウなどと同様、ダイズモザイクウイルスのA及びB系統に抵抗性、しかしC及びD系統に罹病性なので、C及びD系統の発生する地域での栽培はさけた方がよい。

(3) 紫斑病： 育成地の無防除での発生状況調査では、年次、栽培条件により異なるが、おおむねワセシロゲ並かやや多く、ライデンと同様な発病率であった。これは気象的に最も発生し易い時期に成熟期に達することが原因と考えられる。

表1 育成地並びに福井県農業試験場及び福井園芸試験場における試験成績

試験場所	栽培条件	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	分枝数	倒伏程度	子実重 (kg/a)	子実重対比(%)		百粒重 (g)	標対準播比 (%)	障害粒程度			品質
									標準品種	標準播			紫斑	褐斑	裂皮	
育成地	標準播	フクシロメ	8. 1	9.28	60	3.8	無～微	19.8	117	100	22.7	100	微～少	無	無	中上～中中
		ワセシロゲ	7.29	9.21	69	3.5	微～少	16.9	100	100	18.9	100	微	無	無	中上～中中
		ライデン	7.31	10. 2	66	4.7	少	20.1	119	100	20.9	100	少	無	無	中中
	晩播	フクシロメ	8.13	10.12	44	2.4	無	18.6	122	94	23.8	105	少～中	無	無	中中
		ワセシロゲ	8.11	10. 7	55	2.3	無	15.2	100	90	20.5	108	微～少	無	無	中中
		ライデン	8.11	10.16	48	2.8	微	18.5	122	92	22.7	109	微～少	無	無	中上～中中
福井農試	標準播	フクシロメ	7. 7	9.19	63	5.9	微	32.6	108	—	30.3	—	微	微	微	中上
		ワセシロゲ	7. 3	9.14	64	5.0	微	30.2	100	—	28.3	—	微	微～少	少	中中
福井園試	標準播	フクシロメ	7.13	9.19	49	5.5	無～微	37.9	108	100	30.5	100	無	無	無～微	上下
		ワセシロゲ	7. 9	9.16	54	4.6	微	35.0	100	100	31.2	100	無～微	微	少	中下
	晩播	フクシロメ	8. 5	10. 5	52	2.6	無	33.0	108	87	29.5	97	無	無	微	中上
		ワセシロゲ	8. 4	9.28	56	2.3	無	30.5	100	87	29.9	96	無	微	少	中中
北陸農試	標準播	フクシロメ	7.22	9.23	67	4.8	微	35.9	93	100	27.0	100	無～微	無～微	無～微	上下～中上
		ワセシロゲ	7.21	9.20	73	4.2	少	38.5	100	100	29.2	100	無～微	微	微	中上
	晩播	フクシロメ	8. 5	9.30	61	5.5	無～微	35.2	108	98	26.8	99	無	無	無	上下～中上
		ワセシロゲ	8. 3	9.25	71	4.4	微	32.5	100	84	23.5	80	無	無	微	中上～中中

注．育成地は昭和56～59年平均、福井農試・福井園試の標準播は54～59年平均、福井園試の晩播は59年のみ、北陸農試は57・59年平均。

5 総 括

熟期は早の晩であるが、北陸地方の早生種として、対象となるワセシロゲより裂皮粒の発生が少なく、良質で比較的多収である。晩播適応性が高く、晩播きしても百粒重の変動が少なく、早生で大豆+麦の1年2作体系の安定生産を図るため、エンレイを補強する好適品種である。また、

シストセンチュウに抵抗性を有するので、発生が懸念される地域での作付が期待される。

本品種栽培上の一般的な注意事項としては、早生で比較的高温な時期に成熟するので、品質低下を避けるため適期収穫に努めること、紫斑病の発生の多い地域では薬剤防除を行う。